

社員一丸で取り組むSDGs

取材 企業名	加藤精工株式会社	高校名	学校法人愛知学院 愛知高等学校
-------------------	-----------------	------------	----------------------------

○企業の概要

取材させていただいた加藤精工株式会社さんは刈谷市に本社を、豊田市・岐阜県山県市に工場をおかれています。「カタチあるモノも、カタチないコトも。」をキャッチフレーズに、圧造・切削・転造の技術を使って自動車関連部品製造や住生活関連製造を行っている会社です。

○SDGsの取り組みを始めたきっかけ

もともとSDGsに関連する取り組みはしていましたが、2021年頃に企業永続のために、社会課題を解決する部署を作ったのがきっかけだそうです。

○SDGsの取り組み

加藤精工さんが行っている取り組みは主に4つです。

①ダイバーシティへの取り組み

性別・年齢問わず誰でも働きやすい職場環境づくりの一環として、LGBTQ研修が行われています。これは社外講師の方による講話やクイズを行いながら学ぶ、全員参加の研修になっていて定期的に行われているそうです。他にも、「あんしん休暇」や「ライフサポート休暇」など社員が働きやすくなるような制度が新設されたそうです。

②環境配慮への取り組み

環境事故訓練や研修などを通して、環境に関する知識の向上に取り組んでいるそうです。また、省エネ活動や再生エネルギーの導入なども行われていました。

③地域貢献の取り組み

企業版ふるさと納税の寄付を通じて、市内の幼稚園にヒノキの下駄箱やロッカーを寄付したり、地元のスポーツチームや祭りなどへの協賛もされています。また、定期的にインターンシップや職場体験などの受け入れを積極的に行っており、学生との交流をととても大切にされているそうです。

④労働安全・健康への取り組み

「KYT」（危険予知トレーニング）という5～6人のグループを作り、イラストの危険な所を見つける訓練が行われたり、定期健康診断、ストレスチェックや救命講習の実施もされています。他にも、いい環境ではたらくことは、いい仕事につながると考え、全従業員で毎日15分「5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）」の時間を設けています。



○活動を通して

加藤精工さんは社員に4年ほど前にSDGsについての認知度アンケートを行うと、7割の人が「あまり知らない」という結果になったそうです。その後、SDGsの活動を始めていき、2年後もう一度アンケートをとったところ、知らない人が3割ほど減少したそうです。また、この活動を評して2021年には「刈谷SDGsアワード優秀賞」、2024年には「はばたく中小企業300社」選出 など様々な認証を取得しています。

○その他の活動

加藤精工さんは2023年にSDGsオリジナル教育動画を作成し、従業員全員が視聴しました。視聴後には、SDGsを自分ごとにするため社員全員に「SDGs宣言」をしてもらったそうです。また、性別・年齢問わず使用できるバリアフリー仕様の「みんなのトイレ」があったり、チャットでの人権相談窓口が実施されているそうです。他にも、不要になった社員の作業服をアップサイクルし、机やイスに活用していました。

○訪問取材の感想

加藤精工さんは「社員全員で行う」というカタチがほとんどで、会社内ですれちがうだけでお互いに笑顔であいさつし合ったりと、一体感を感じました。また、社内チャットではプチスタディといって不定期にいろんな人がクイズを出したり、気軽に行える活動がほとんどで、楽しくSDGs活動を行っていると感じました。私の中では、「SDGs」と言ったら地球環境のイメージが強いですが、加藤精工さんは環境だけでなく、ジェンダー等の問題解決にも取り組まれていてとても勉強になりました。「社員全員で行っている」ところが加藤精工さんの強みだと思いました。

○企業から高校生へのメッセージ

弊社はただモノを作るだけではなく、社会に必要とされる会社を目指しています。

製造業は、男性ばかりというイメージがありますが、弊社には、性別や年齢問わず沢山の従業員が活躍しています。

今、SDGsを始め様々な社会課題がありますが、1人1人がSDGsに取り組み、共に社会に役に立つ活動が出来ることを期待しています！

